

新『長門市』誕生記念

知ってtell!?ながと

あなたは、「長門市」についてどのくらい知っていますか？

長門市内には「金子みすゞ記念館」、「香月泰男美術館」、「村田清風記念館」、「くじら資料館」の4つの記念館や美術館があります。

「あるということは知っているが、いつでも行けると思ってまだ入館したことがない」、「昔行ったことがあるが、展示内容については忘れてしまった」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

新市誕生を記念して、この4つの施設の特別入館券を配布します。各施設へ入館される際に、特別入館券を使用された方は、入館料を全額免除いたします。今年の夏は、この記念館・美術館をはじめ、『長門市』を、より『知って』、その魅力を市外の親戚や友人に『tell (伝える)』してみましょう。

■ 特別入館券の配布方法は？

特別入館券は、7月15日号の広報に折り込んで配布します。(1世帯1枚)

■ 特別入館券の使用方法は？

入館を希望される施設の特別入館券に、グループ代表者の氏名・住所・人数など必要事項を記入の上、その部分を切り取り各施設の受付へ提出してください。

■ 特別入館券の有効期間は？

特別入館券が使用できるのは、平成17年8月1日(月)から平成17年8月7日(日)までです。ただし、当期間中も施設の休館日、開館時間は通常通りですのでご注意ください。

各施設の期間中休館日は次のとおりです。

- ・金子みすゞ記念館 期間中休館日はありません
- ・香月泰男美術館 8月1日(月)
- ・村田清風記念館 8月1日(月)
- ・くじら資料館 8月2日(火)

■ 問い合わせ 企画総務部 企画振興課 文化振興係
☎ 23-1115

ふるさと再発見 してみませんか？

8月1日(月)から8月7日(日)まで
市内4施設を無料開放します

「身近なことなのに意外と気がつかない…」、「知ってるつもりだったのに案外説明ができない…」、そんな経験をされたことはありませんか。

私たちが住むここ長門市には長い歴史があり、多くの文化的遺産が残されています。先人たちの努力があったからこそ、今の長門市があるといっても過言ではないでしょう。彼らの足跡は、現代の私たちにとって貴重な財産であり、これからの後世に伝えていかなくてはなりません。そのためには、私たちが先人たちに学び、しっかりとした知識と理解をもつことが大切です。

現在市内には4つの記念館・美術館があり、貴重な資料が数多く展示されています。「身近なこと」だからこそ、この機会に足を運んで、ふるさとを再発見してみたいかがでしょう。



検索室 ▲



みすゞギャラリー ▲



常設展示室 ▲

金子みすゞの

まなざしをみつけた

— 金子みすゞ記念館 —

『赤い鳥』、『金の船』、『童話』などの童話童謡雑誌が次々と創刊され、隆盛を極めていた大正時代末期。そのなかで彗星のごとく現れ、ひときわ光を放っていたのが童謡詩人・金子みすゞです。

金子みすゞ（本名テル）は、明治36年大津郡仙崎村（現在の長門市仙崎）に生まれました。成績は優秀、おとなしく、読書が好きでだれにでも優しい人であったといわれています。

るといふ鮮烈なデビューを飾ったみすゞは、『童話』の選者であった西條八十に「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛されるなど、めざましい活躍をみせていきました。

ところが、その生涯は決して明るいものではありませんでした。23歳で結婚したものの、文学に理解のない夫から詩作を禁じられてしまい、さらには病氣、離婚と苦しみが続きました。ついには、前夫から最愛の娘を奪われ、26歳に自死の道を選び、26歳という若さでこの世を去っています。こうして彼女の残

した作品は散逸し、いつしか幻の童謡詩人と語り継がれるばかりとなってしまうのです。それから50余年。長い年月埋もれていたみすゞの作品は、児童文学者の矢崎節夫氏（現金子みすゞ記念館館長）の執念ともいえる熱意により再び世に送り出され、今では小学校「国語」全社の教科書に掲載されるようになりました。

天才童謡詩人、金子みすゞ。自然の風景をやさしく見つめ、優しさにつらぬかれた彼女の作品の数々は、21世紀を生きる私たちに大切なメッセージを伝え続けています。

新しくなつかしい

あたたかな雰囲気

金子みすゞ記念館は、平成15年4月11日、金子みすゞの生誕100年目の誕生日にあわせてオープンしました。昔ながらの風情を残す仙崎みすゞ通りにある記念館は、本屋を営んでいたみすゞの実家、金子文英堂の跡地に建てられたもので、本館と金子文英堂の二つの建物からなっています。遺稿集や着物のハギレなどの遺品を展示した常設展示室のほか、みすゞの詩の世界を音や光で体感できるみすゞギ



金子みすゞ記念館

- 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
 - 休館日 毎月最終火曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(1月2・3日は開館)
 - 入館料 一般/350円 小中高校生/150円
- ※団体料金(20名以上) 一般/300円、小中高校生/100円
〒759-4106 長門市仙崎錦町
TEL: 26-5155 FAX: 26-5166

ャラリー、みすゞの詩全512編がデータベース化され検索・鑑賞できる検索室もあり、金子みすゞの魅力をわかりやすく紹介しています。

最新の技術を駆使しながらも、みすゞが暮らした当時のイメージを大切にしたい館内は、新しくなつかしい、そんなあたたかい雰囲気でおもてなしをさせていただきます。

また、みすゞ通りに面した金子文英堂跡地には、当時の建物や庭を再現。まるで金子みすゞが生きていた大正末期にタイムスリップしたような気分を味わうことができます。



金子みすゞ (1903~1930)

本名・金子テル。明治36年大津郡仙崎村（今の長門市仙崎）に生まれる。大正末期優れた作品を発表し、『童話』の選者であった西條八十に「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛されるなどめざましい活躍をみせながらも、26歳の若さでこの世を去った。その優しさにつらぬかれた詩句の数々は、今もなお大きな感動をもって、人々の心に広がり続けている。



私のご案内します

金子みすゞ記念館
儀めぐみさん

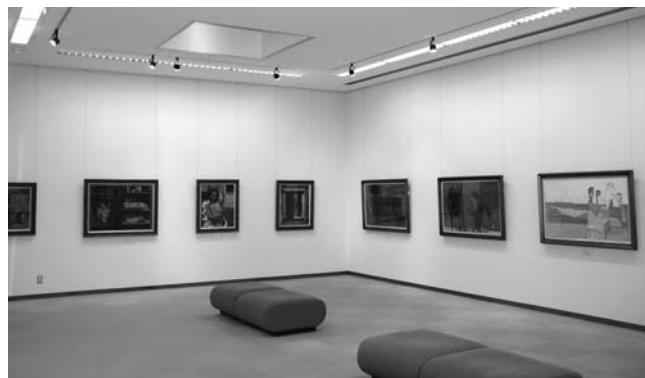
『だれの心のなかにもみすゞさんはいます。あなたの心のなかのみすゞさんに出会ってくださるとうれしいです』

23年前、童謡詩人金子みすゞを発見し、甦らせた当記念館館長・矢崎節夫氏の言葉です。

みすゞさんの詩は、小さな子どもからお年寄りまでが理解できるわかりやすい言葉で、『いのちのこと』、『こころのこと』、『みんなちがってみんないいこと』、『この世の中に無用なものはないこと』など、私たちにとっても大切なメッセージを伝えてくれます。

長門市出身の金子みすゞ。私たちにとっても大切な宝物の一つです。

この期間を利用して、あなたの心の中のみすゞさんに出会いに来てください。お待ちしております。



展示室 ▲



おもちゃ展示 ▲



復元アトリエ ▲

詩情豊かに自然をみつめ、 人間愛と平和を描く

— 香月泰男美術館 —



近代日本洋画界に偉大な足跡を残した洋画家・香月泰男は、明治44年三隅村久原（現在の長門市三隅中久原）で生まれました。

少年の頃から画家を志し、東京美術学校（現・東京芸術大学）を卒業。美術教師を務めるかたわら制作活動に励み、文部省主催の文展での特選をはじめ、数々の賞を受賞するなど、次第に画家として将来を嘱望されるようになります。

しかし昭和18年、激化する戦時日本の情勢のなかで召集令状を受けて満州ハイラルへ出征。そして敗戦後捕虜とし

てシベリアの収容所へ送られ帰国するまでの2年間、極寒と辛苦の生活を強いられました。この戦争捕虜体験が、のちに香月生涯の代表作となる「シベリヤ・シリーズ」を生み出させることとなります。

帰国後、香月の描いた「黒」の絵は、これまでの澄んだ色使いとの違いに急速に評価を落としてしまいましたが、5年を過ぎる頃から世間の目が変化を見せてきました。「香月が描いている黒い絵は、日本伝統の墨絵を現代の油絵に投影させようとしているのではないか」と。そして「現代最高

の絵である」と賞賛されるまじになるのです。

香月は「ここがへ私の地球だ」と言っているさと三隅をこよなく愛し、郷里を離れることなく創作活動に情熱を燃やし続けました。そして昭和49年3月8日未明、62歳でその生涯を閉じました。

2年間のシベリア抑留という死と隣り合わせの体験をしながら、どんな状況でも人間的な目を持ち続けた香月泰男。人間愛と平和をテーマに描かれた彼の作品は、今なお見る人に深い感動を与えつづけています。

企画展にあわせて

おもちゃの展示も

平成5年に開館した香月泰男美術館（当時は香月美術館）には、香月家に大切に保管されていた油彩、素描などが収蔵、展示されています。

館内の3つの展示室では、美術館に収蔵されている初期から晩年までの作品約450点の中から、年3回企画展を開催。「シベリヤ・シリーズ」とは違う、もう一人の香月に出会うことができます。

企画展に加えて展示室の一角には、おもちゃの展示コー

ナーも常設されており、動物やサーカス楽師などユーモアあふれる造形作品を楽しまることができます。

これらはブリキなどの廃材や道ばたの空き缶、石ころを使って香月画伯が晩年創作した物で、画伯のイマジネーションによって生き生きとした生命が吹き込まれています。

平成16年10月に開通した市道湯免辻並線は、「香月ロード」と名付けられました。道沿いには5体の大きな「おもちゃ」が立てられており、四季を彩る街路樹とともに、私たちが美術館へ導いてくれます。



香月泰男 (1911~1974)

洋画家。三隅中久原生まれ。東京美術学校（現東京芸大）在学中に『雪降りの山陰風景』で国画会に初入選。昭和18年に召集され満州に渡る。昭和20年に捕虜としてシベリアに抑留され、過酷な体験を経て昭和22年に復員。シベリアでの体験が『埋葬』に代表される「シベリヤ・シリーズ」を生み出し、昭和44年に第1回日本芸術大賞を受賞。昭和49年3月8日に心筋梗塞のため自宅で急死。享年62歳。



私のご案内します

香月泰男美術館
藤村 祐子さん

香月画伯の代表作は「シベリヤ・シリーズ」ですが、当館ではそれ以外の平和を主題とした、愛情あふれる香月芸術の原点といえる作品たちをご覧になれます。中でも私は「おもちゃ」をおすすめします。画伯はブリキに針金、木ぎれ、古釘、空き缶など誰も振り返らないものたちの心をくみとり、おもちゃの世界をつくりあげました。

「そこにはおもちゃたちの日常生活の一瞬を切り取った世界がある。そして次の瞬間又おもちゃの世界が動きはじめる」

小さなお友達があなたに語りかけてきます。彼らとお話をされてみませんか？

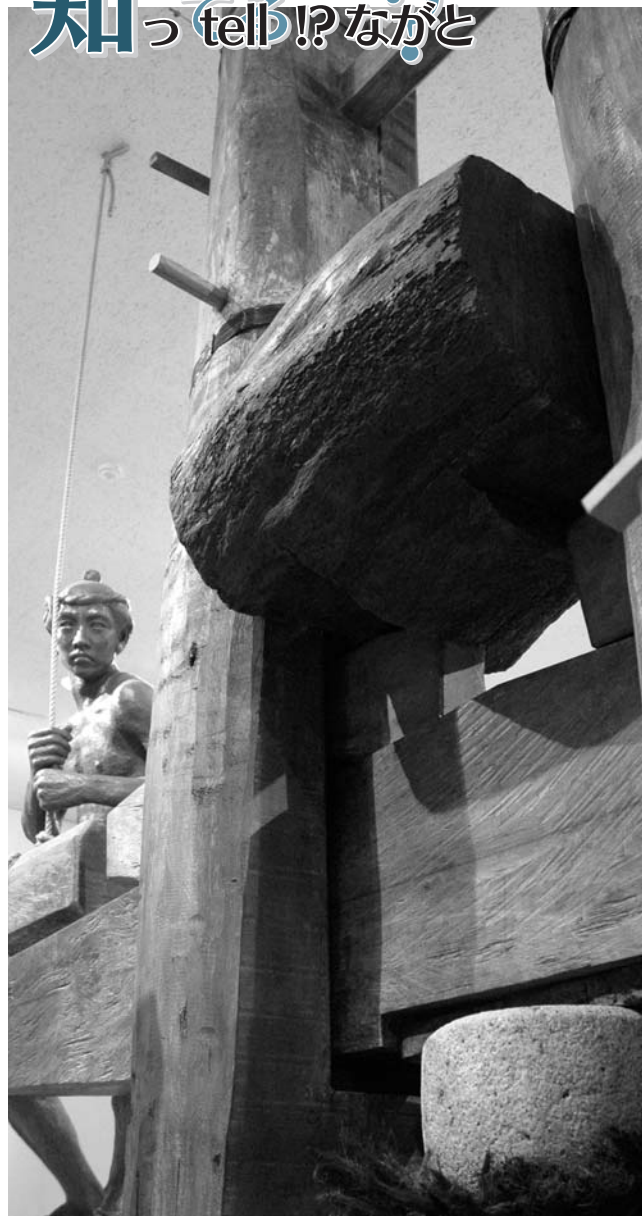
是非、ここふるさと三隅で画伯の素顔に触れ、優しく心安らく時をお過ごしください。



香月泰男美術館

- 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 毎週月曜日 (祝日の場合開館) 年末年始、展示替え期間中
- 入館料 一般/500円 大学生/300円 高校生以下無料

※団体料金 (20名以上) 一般/400円、大学生/240円
〒759-3802 長門市三隅中湯免
TEL: 43-2500 FAX: 43-2577
URL: <http://ww5.tiki.ne.jp/misumici/kazuki/>



第二展示室 ▲



第一展示室 ▲



国指定史跡「三隅山荘」▲

維新回天の礎 時代を見通す郷土の先賢

— 村田清風記念館 —

幕末の激動する政治情勢の中にあつて、藩政改革の中心人物として手腕をふるった郷土の先賢・村田清風は、天明3年（1783年）長門国大津郡三隅村沢江（現在の長門市三隅下沢江）に生まれました。当時、長州藩の財政は困窮を極めており、13代藩主・毛利敬親は、中級武士であつた清風を抜擢登用し、藩の財政改革にあたらせました。

この「天保の大改革」で、清風は負債8万貫の返済のための節約の徹底や、武士の負債整理と士風の一新、四白政策（紙・蠟・米・塩）の振興などを行い、さらに軍備の改革と充実のために江戸に武器庫を建設、萩では海岸防備等の訓練を行いました。その結果、長年の弊害を取り除いて出費を節約し、藩政は一新。士気は大いに高められ、後に長州藩が雄藩となる基礎を築きあげたのです。

が、中風に倒れてしまひます。不自由な身をおして密議にあずかつていたものの、中風の再発により、城内平安古の役宅において73歳でその生涯を閉じました。幼少より清風の薫陶を受けた周布政之助（三隅下浅田の出身）は、その後を受け継ぎ、革新的政治家として安政以後の難局に対処しましたが、維新の大業を見ることなく悲運にも散った人です。しかしその志は、吉田松陰、高杉晋作、木戸孝允らに受け継がれ、長州藩革新派を輩出する原動力となりました。

歴史、民俗資料を

多数展示

村田清風記念館には、村田清風と周布政之助の遺品を中心に展示した歴史展示室（第一展示室）と防長四白（紙・蠟・米・塩）の生産用具や数々の民具を展示した民俗資料室（第二展示室）があり、二人の業績と生涯をたどるとともに、郷土の歴史や文化に触れることができます。第二展示室内には、民俗資料に併せて米や蠟の生産過程を説明したパネルや、「防長四白と村田清風」の映像システムもあ



村田清風記念館

- 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 毎週月曜日 (祝日の場合開館) 年末年始
- 入館料 一般/200円 大学生/100円 高校生以下無料

※団体料金 (20名以上) 一般/160円、大学生/80円
〒759-3803 長門市三隅下沢江
TEL・FAX: 43-2818

り、当時の歴史、文化が詳しく説明されています。また記念館2階には、沢江の街並み、仙崎湾を一望できる展望室もあります。そのほか記念館そばには、村田清風の生家でもある国指定史跡「三隅山荘」も残されています。この旧宅には吉田松陰をはじめ、多くの政客が往来したといわれています。旧宅のほかには柴田式初倉、湯殿、馬屋などが旧規模のまま残されており、明治維新の基礎づくりを成し遂げた村田清風の当時の生活の様子をうかがい知ることができます。



村田清風 (1783~1855)

天明3年、長門国大津郡三隅村沢江（現在の長門市三隅下沢江）に生まれる。藩主・毛利敬親に抜擢登用されて長州藩天保改革の第一人者として活躍。5人の藩主に仕えて50年、行政官の超先達であり、その抱負、学識の深さは時代を超えていた。清風が期待した周布政之助が藩政改革を継承し、更に吉田松陰、高杉晋作、木戸孝允と輩出する藩革新派の原動力となった。



私のご案内します

村田清風記念館

大谷 喜信さん

藩年収の22倍、8万貫の大借銀を解消するため厳しい財政改革を断行し、維新回天の基礎を築いた村田清風と、その後継者周布政之助に関する史料を展示しています。あまりの厳しい改革のため、清風をして「国歩艱難策未だ成らず…皎月門前誰か石を砕く、芳梅籬外渠れ檻を剪る…」[「…餐麦好みて親友の誘を招く、一弓を買いて防長の城と作す」と詠じさせた清風の心境に触れてみませんか。

また清風の後継者周布政之助は、攘夷の決意直後に「…夷（外国）を攘いて後、国開くべし」と言い、また攘夷決行の二日後、伊藤博文、井上馨ら5人の若者（長州の五傑）を密かにイギリスに洋行させました。開国に備えた先見性ある若い政治家の志を学んでみませんか。



現代に受け継がれる 浦人たちの心と誇り

—くじら資料館—



かつて、日本海には冬になると多くの鯨が姿を見せていました。この鯨を捕らえて来たのが北浦地域で、長州捕鯨と呼ばれています。延宝元年（1673年）頃から鯨組が始まりました。中でもその中心であった通浦は北浦捕鯨最大の基地として賑わいをみせていました。

しかし浦人たちは、犠牲となった鯨たちへの感謝や哀れみの情を忘れることはなく、「鯨墓」、「鯨位牌」、「鯨鯨過去帖」と三位一体での供養を営むようになりました。

明治半ばになって鯨の数も減り、近代様式捕鯨へと歴史は移り変わっていきませんが、捕鯨が過去のものとなった今も、人々が残した伝統は数々の旧跡とともに静かに受け継がれているのです。

歌う場合は、鯨太鼓2基を中心にも座をつくり、頭には赤いはちまきを締め、鯨へは感謝と哀れみをこめ、祈るよう両手をすり合わせながら合掌する形で歌われます。

市内では通地区、仙崎地区、川尻地区で鯨唄が受け継がれており、地区の行事等で歌われるほか、地元の小学生によっても歌い継がれています。



展示室 ▲



捕鯨用具 ▲



パネル展示 ▲

捕鯨文化を伝える 貴重な歴史資料

通地区には多くの捕鯨に関する遺産や資料が残されています。その貴重な文化財を一堂に集め、鯨文化を後世に伝え、情報発信する拠点としてくじら資料館が平成5年に開館しました。

開館以来、市内外あるいは海外から多くの人が訪れ、昨年の6月には入館者が30万人を突破しました。

くじら資料館は1階が伝習室と事務室、2階が展示室と収蔵庫となっております。



くじら資料館

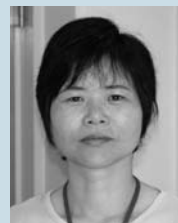
- 開館時間 9:00~16:30
 - 休館日 毎週火曜日（祝日の場合開館）
年末年始
 - 入館料 18歳以上/200円
6歳~18歳未満/100円
- ※団体料金（20名以上）
18歳以上/160円、6歳~18歳未満/80円
- 〒759-4107 長門市通11区
TEL・FAX: 28-0756

展示室には国の重要有形民俗文化財に指定されている「長門の捕鯨用具」140点が展示され、鯨とともに生きた漁師の写真や古式捕鯨の道具、鯨唄に使われた太鼓など、当時の捕鯨文化や人々の生活の様子を伝えています。

このような歴史資料に触れると、私たちがいかに鯨と深い関わりを持ってきたかを感じることが出来ます。くじら資料館では古式捕鯨の歴史とともに、鯨の体内から出てきた胎児を哀れみ、供養してきた浦人たちの優しい「心」も後世に伝えています。

長門の捕鯨用具

国指定重要有形民俗文化財。江戸時代以降、北浦沿岸で盛んに行われた「網取捕鯨」に用いられたもの。指定の用具は、通、瀬戸崎鯨組のもので、捕鯨用具、解体用具、加工用具、船用具、仕事着など合計140点。わずかに他浦の近代的捕鯨用望遠鏡等も含んでおり、北長門地方の網取捕鯨の全貌を知ることができる貴重な資料である。



私のご案内します

くじら資料館
磯野多加子さん

「ここには、何があるのですか!?」とお客様からよく質問されます。うまく説明ができないにもかかわらず、見学していかれるお客様。

貴重な捕鯨道具のみならず、歴史ややさしさが、小さい資料館にはたくさん展示してございます。

ゆっくり見ていただいたお客様から「大変貴重なものを見せていただきました」とお声をかけていただき、あたたかい「心」をお土産に、帰っていただいています。

また、知っているようで知らないクジラの豆知識など、ほかにいろいろとご質問がございましたらお気軽にお声をおかけください。

皆様との一期一会をお待ちしております。ぜひお出かけください。